

やまぶき

田舎の和算研究の個人通信

(題字 伊藤武夫氏)

4

第51号 平成三〇年(二〇一八) 八月一日

発行部数 十五部 (不定期刊行)

発行者 東京都羽村市

山口 正義

(前号の続き)

私の和算家調査 (二)

五、北武蔵の和算家の調査

飯能の二人の人物について調べましたので、次は少し範囲を広げて、「埼玉北西部の和算家」について調べてみようと考えました。埼玉北西部とは、上里・深谷・熊谷・行田・嵐山・東松山・小川・秩父・飯能辺りを指し、地図的には「埼玉の左半分」で、これを三上義夫の「北武蔵の数学」にならって「北武蔵の和算家」の調査としました。六十七歳になる頃で、七十歳になるまでを目標にしました。幸いなことに調査の途中からは野口泰助先生や松本登志雄様を知ることができ、大変な励みとなりました。また途中からですが、調査は「やまぶき」という名の個人通信誌を発行しながら進め、「批判を頂きながら進めました。以下、思いつくままに調査に関連して簡単なエピソードなどを記します。

【和算家の実家を訪ねて】

最初に和算家の実家を訪ねたのは平成二十四年十月で熊谷の代島久兵衛の実家でした。実家近くにある墓碑を見学してから事前連絡もせずいきなり訪ねましたが、非常に親切に対応して頂きました。和算資料の他に、居間に通され大きな絵図を広げて見せて頂きました。天保年間のもので、表装し直して間もな

やまぶき 第51号

「やまぶき」
埼玉県北西部の和算研究の個人通信

発行部数 15部
発行所 東京都羽村市
〒206-8502
〒206-8502
Eメール: yamabuki@yodobashi.com

第51号 平成三〇年(二〇一八) 八月一日
発行部数 十五部 (不定期刊行)
発行者 東京都羽村市
〒206-8502
〒206-8502
Eメール: yamabuki@yodobashi.com

【和算家の実家を訪ねて】

最初に和算家の実家を訪ねたのは平成二十四年十月で熊谷の代島久兵衛の実家でした。実家近くにある墓碑を見学してから事前連絡もせずいきなり訪ねましたが、非常に親切に対応して頂きました。和算資料の他に、居間に通され大きな絵図を広げて見せて頂きました。天保年間のもので、表装し直して間もな

さいたま市 さいたま市 さいたま市

さいたま市 さいたま市 さいたま市

さいたま市 さいたま市 さいたま市



開成算術の碑

1/4

やまぶき (埼玉北西部の和算研究の個人通信)として月1回ほど発行しました。46号まで発行し休止中ですが、いつか再開したいと思っています)

倉五郎がさいたま市西区中釘の秋葉神社に奉額した算額の問題(二問目)の解は少し間違っています。後になって、撮らせて頂いた史料を見ると正しく求めている数字がありました。恐らく算額にする時に転記ミスをし

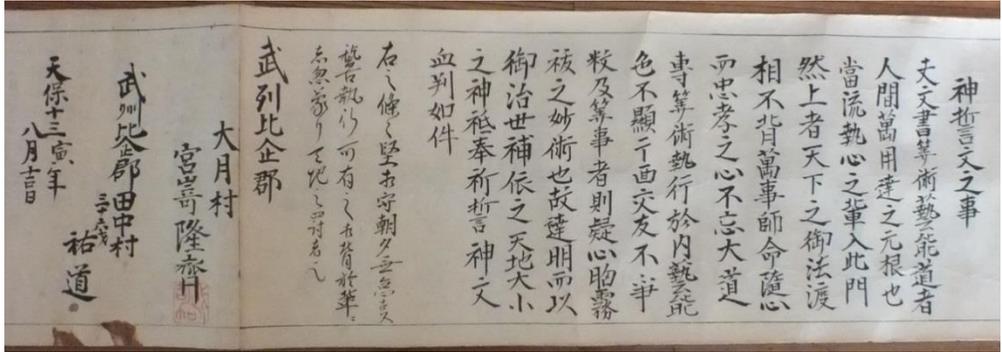
いものでした。「絵図師 組頭 久兵衛亮長」とあるのが印象的でした。三年後に「絵図に見るくまがや展」(熊谷市立図書館)が開催され、この絵図に再会しましたが、その展示会のパンフレットに寸法が「224×178 ㎢」とありました。

ときがわ町の宮崎萬治郎の実家では、入門時に血判した巻物風の誓約書「神誓文之事」(天保年間)を、小川町の高橋和重郎の実家では「改正台帳」(明治九年)や「算法遺術五百題」(明治三十年)を見せて頂きました。ともに非常に大事に保存していることが伝わってきました。吉見町の田辺倉五郎のお墓探はやつと二回目に探せましたが、お墓を見ていると実家の奥様が来られ、趣旨を話すと家に案内され、倉五郎の書かれた資料を拝見させて頂きました。

たのだろ
うと思
ました。

【お墓探
し】

美里町
小茂田の
桜沢英季
は吉沢恭
周の門人
ですが、
あまり知
られてい
ません。
色々調べ
ても英季
の墓の事
前情報は
皆無でし
たので、
地図で小
茂田の唯
一の寺院
である勝
輪寺に行
ってみま
した。墓



宮崎萬治郎の「神誓文之事」(天保年間)



拓本「大越数道軒の辞世の拓本(「樂しきは老木に花のこちせり数の梢に実を結びて」とあります)

地では片っ端から「桜沢家」の墓地を探しました。なかなか見つからないので諦めかけた時、目の前にあつた墓石を何気なしに見たら「行年八十才」の文字が目に入って来ました。閃きました。その墓には正面に「天壽算翁居士、左に「俗名櫻澤長右衛門英季行年八十才」とあり、辞世らしきものもありました。簡単に拓本を採り古文書の先生にもみて頂き、「そろばんも あだしのに行 道のつれ」と読みました。戒名といい、辞世といい、算者としての拘りが感じられ、幸せな人生だったに違いないと思いました。

永山義長は上州と埼玉を結びつける人です。この人の墓は『群馬県史』に高崎市下室田の長年寺と準墓が安中市の大泉寺にあることが記されていますが、実際に探すと共に広い墓域で結構大変でした。大泉寺には初代彦根藩主井伊直政の正室で安中藩初代井伊直勝の母親の墓碑のあるかなり広い墓域があり

ますが、その墓域境に小さな永山義長の墓がありピツクリしました。碑文は明確に読みました。お墓探しはかなりの数に

なり、墓地に行っても何となくどの辺を探せばよいか勘が少し働くようにもなりました。墓の文字は風化して写真に撮っても読めないこともあり、実家に断って拓本を採らせてもらうこともありました。吉見町の矢嶋久五郎の墓はそうでした。横瀬町の大越数道軒の墓の拓本を採って辞世を解説したものを送りましたら大変喜ばれたこともありました。

【算額の見学】

はじめて算額を見学したのは七年程前の嶋山町円正寺の算額(文政十一年)でした。新装の建物の不動閣の展示室には多くの絵馬があり文化財に指定されていますが算額もその一つでした。少し高い所に飾ってあったので写真を撮らせて頂いてから文章を読もうとしましたが、劣化して読めない箇所が結構ありました。赤外線写真に撮れば読めるかも知れないと思いつつも月日ばかり過ぎました。と



吉見観音（安楽寺）の算額（矢嶋久五郎、文政5年）

ところが、五年後にこの算額のことを筆者の個人通信誌「やまぶき」に書いたところ、野口泰助先生から昭和五十二年に全文を書き写していた資料を頂きびっくりしました。そこでこの問題を解いてみると答も術文にも不備のあることわかり、これまた驚きました。この算額には菅原道真の天神像も描かれている珍しいもので、飛び梅伝説に因んだものでした。掲額者はこの寺院の何代か前の住職でした。吉見町の吉見観音（安楽寺）の算額（文政五年）も同じ時期に見学しました。寺の人に

来意を告げると快く案内して頂きました。観音堂の
中の高
い所に
掲げて
ある算
額を見
てびつ
くりし
ました。
文字も
図形の
絵付け
も劣化
は少な
く美に
美しい

ものでした。自慢できるほど算額を見ていませんが、私が見た中では一番美しいもので、今でも机の前に写真を飾り毎日見えています。前述の矢嶋久五郎が掲額したもので、墓には数回通い碑文を解説しようとしたのですが、完全には読めませんでした。

熊谷の玉井神社の鈴木仙蔵の算額（嘉永元年）を見学した際は、神社総代の方にお世話になりました。本殿の錠前を開けて頂いて見学しましたが、時代物の絵馬も沢山掲げられているのでビックリしました。算額は高い所
にあり風化も進んでいるのか肉眼では良く見えませんでした。写真を沢山撮りパソコン上で多くの門人名などを確認しました。この算額は正五角形の面積を三等分する問題ですが、図形と問文・答・術文は中央上段に小さくあるだけで、門人等の百五十名近い氏名が多くの場所を占めていました。

嵐山町の宝薬寺の算額（文化九年）は平成二十五年七月発行の『埼玉史談』で初めて紹介されたもので、それまでは知られていませんでした。この記事を見て見学しました。宝薬寺は無住で近くの別の寺が管理しているの
で、事前に算額の見学を電話でお願いしたら、「算額は薬師堂に入って左上にあります、鍵は掛かっていないのでいつでも自由に見学して下さい」と言われたのでちよつとびつくりしました。行ってみるとその通りでした。自

由に見学
できるの
は嬉しい
ですが、
今の世の
中では少
し不用心
ではない
かと心配
になりま
した。こ
の算額は
現存する
埼玉の算
額では七
番目に古
いとされ
ます。図
や文字は

明瞭で、術は天元術で解いてあります。算木は正数は赤色、負数は黒色で表わしていますが、検討してみると一ヶ所その色使いが間違っていました。

【野口泰助先生の史料（資料）】
調査では野口先生に史料（資料）の拝見などで大変お世話になりました。和算史を彩る貴重な資料の他に、地元に着した資料も沢



宝薬寺の算額（船戸庵栄珍、文化9年）

山見せて頂き、利用もさせて頂きました。前者では特に『算法求積通考草稿』の精細さに驚きました。『算法求積通考』を見たときの印刷の凄さにも驚きましたが、『算法求積通考草稿』は当然それよりさらに細かい筈です。世の中にこの『草稿』と同じものがさらに存在するかはわかりませんが、『草稿』は少なくとも二セットは作成され、一つは彫工に使われてこの世から消滅し、もう一つがこの書物ではないかと思われました。和算の数学的内容ばかりでなく、江戸後期の印刷技術の高さという意味でも極めて貴重な史料ではないかと思いました。

後者では特に熊谷・行田近辺で、戸根木格斎の門人帳、文殊寺の茂木惣平の算額(模写)、田中算翁の『掌中圓理表』、吉田庸徳の著書類、伊藤慎平編輯の膨大な『算籍便覧』、平井尚休の『算法雑問集』など沢山ありました。地域の和算を語る上では必須の史料だと思います。

六、最後に

調べた算者は七十名ほどになります。少し深く調べた人から、通り一遍の調査しか出来なかった人までまちまちですが、一般の方からみればほとんど無名の人達です。その無名の人達が取り組んだ和算を述べるからこそ、価値のあることだろうと思っています。

もつとも、江戸という中央で活躍した例外の人もいました。既述の千葉歳胤(飯能)や今井兼庭(上里)、それに和算史上最も著名な一人である藤田貞資(深谷)です。しかもこの三名には互いに接点があるというのも面白いことと思いました。

ともかく、このような経過をたどって『北武蔵の和算家』としてまとめ、発刊することにしました。思い立ってから五年、定年後の和算の調査からは十一年経ちました。

(終わり)

編集後記

今年の暑さは異常だ、暑すぎる。毎年同じようなことを言っているような気もするが、今年こそ本当に暑い。危険だ。

七月二十三日には高気圧に覆われ、青梅市で40・8℃を記録した。東京で初めての40℃越えということで話題になった。青梅の測候所は青梅市新町にあり、我が家からそう遠くない。我が家近辺は全国レベルで気温が高い場所となっていました。

この暑さの最中、「命にかかわることもある危険な暑さ 熱中症に嚴重警戒を」というのが度々ニュースで流される。この言葉の解説は気象庁のホームページ(HIP)を見ても見つかからない。遺憾だ。「暑さ対策をしないと

命を落とします。必ず十分な暑さ対策をして下さい」という意味だろうが、この警戒が発せられる条件などが不明で遺憾なのだ。

大体、暑さについては、最高気温が35℃以上の日を猛暑日、30℃以上の日を真夏日、25℃以上の日を夏日、0℃未満の日を真冬日、最低気温が0℃未満の日を冬日という、と件のHIPにある。また熱帯夜とは夕方から翌日の朝までの最低気温が25℃以上になる夜のことをいう、ともある。

異常気象は暑さだけでない。信じられない集中豪雨が発生するようになってきた。「記録的短時間大雨情報」というのが関係する。

台風も昔と違う。先日の台風は予想だにしない経路を辿り人々を驚かせた。二つの高気圧の位置関係でこんなことになったというのだ。地球が狂い出しているのか。

気象庁は、六種類の「特別警報」、七種類の「警報」、十六種類の「注意報」を発表している。特別警報は警報の発表基準をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害が発生するおそれが著しく高まっている場合で、最大級の警戒の呼びかけという。

一方「高温注意情報」は概ね35℃以上になる場合に発せられるが、十六種類の注意報とは別であくまでも気象の「注意情報」に過ぎないという。気象情報の理解も大変だ。生きて行くのが辛くなる!